

みどりアシスト研修会

「発達障害の理解と支援について～自閉症スペクトラムを中心に～」

天王みどり学園 教育専門監 新目敏子

11月2日、上記をテーマに本校で地域研修会を開催しました。昨年度はオンラインのみでしたが、今年度は、外部の参加者がオンライン、校内職員・秋田県総合教育センター研修員の先生方には対面で実施することができました。

適切な対応がなされず、不適応や不登校などの二次障害になってしまうことも多い自閉症スペクトラムの子どもたちについての特性の理解と支援について、スライド(下図参照)を用いながら、子どもたちの困難さに共感し、周囲が事前の働きかけや具体的な手立てを工夫することで成功体験を増やし、意欲や自信を育むことが大切であるといった話題で進めました。オンラインでの参加の先生方からは、「短時間で参加しやすかった」「オンラインで参加しやすかった」等の感想があり、次年度もオンライン等を活用しながら、たくさんの先生方に参加していただくことができるような研修会の実施に努めていきたいと思えます。

ASD (自閉症スペクトラム)

1 社会性の障害

- ・人の気持ちが読めない
- ・他の人との交流がうまくいかない
- ・暗黙のルールがわからない
- ・仲間意識がもてない 等

2 想像性の障害(強いこだわり)

- ・興味の幅がせまい
- ・パターン化されたものを好む
- ・予定の変更や活動の切り替えが苦手等

3 感覚過敏や感覚鈍麻

音や光 感触 匂い 寒暖等(学習環境への配慮)



3

構造化について

- ①物理的な構造化
 - ・物理的に分かりやすい境界を設ける、どこで何をするか分かりやすくする
- ②時間の構造化
 - ・スケジュールの視覚化(写真・絵・文字等、理解力に合わせて)
- ③活動の構造化
 - ・活動の流れを分かりやすくする(机の左の課題ができたなら右の箱へ入れたら終了)
- ④一連の流れの構造化
 - ・一連の流れを同じ手順で習慣化することで安定した生活が送れるようにする
- ⑤課題の構造化
 - ・学習で取り組む課題について、どのような手順でどのように行い、どうなると終わるか分かりやすく示す

12

このような特性は一人一人異なるため、丁寧な実態把握が大切になります。



構造化を行うことで、見通しをもち、安定した生活を送ることができます。

不適応行動の背景

- ・不安を表現できない
- ・コミュニケーションがうまくとれない
- ・退屈することがない
- ・こっちを向いてほしい
- ・痛いところがある。(一番見過ごされやすいのが生理条件である。歯の痛みがパニックの原因になることもあるのでチェックが必要。)

こだわり

「やる必要をなくす」「場所や時間を決める」「一定の時間や場所ならOK」など。不安なときこだわりは強くなる。すぐになくそうとするのではなく、本人の気持ちを受け止める。

パニックについて

自分の思い通りにいかなかったり、不安になったりして、自分ではどうしてよいか分からなくなったときに起こる。パニックにならずにすむように、起きそうな状況を選んだり、その状況を変えたりする。そのような事前の働きかけができていて起こってしまったときは危険のないように静かに待つようにする。



21

不適応行動が起こってしまったからではなく、事前の働きかけを変えて、未然防止に努めます。



演習:

要求が通らない(好きな遊びをしたい) → 暴れる → 要求が通る

→ 活動に参加する → 教師からほめられる

- ・あらかじめ今日の活動を伝えて、何をやるか決めておく
- ・あらかじめ今日の活動を伝えて、活動後にやりたいことができて伝える
- ・あらかじめ今日の活動を伝えて、選択肢を与えて自分で選ぶ
- ・あらかじめやりたい活動がいつできるかを伝えておく
- ・ホワイトボードに活動を貼り、終わったら外していく

・暴れることがコミュニケーションの手段になっている。
・不適応行動を正しいコミュニケーション手段に置き換える。
・試してみても効果がない場合は、仮説を立て直し、手立てを考える。
・自由時間(すきま・曖昧)の不適応行動が多い。一人で過ごすことができるようにする。

その場しのぎの対応はNG

22

不適応行動(例:暴れる)が起こらないよう、事前の働きかけを行い、適切な行動を増やします。

高等部の取組～卒業後の進路につながる指導の実態～

本校高等部では、「心身ともに健康で明るく」、「思いやりの心もち、積極的に他者と関わりお互いを認め合い」、「自分の目標に向かって自ら学び豊かな社会生活を送る」ことができる生徒を育てるために、卒業後の仕事や生活につながるキャリア教育に取り組んでいます。

1. 地域と連携した職業教育（勤労観、職業観の育成）

作業学習

作業学習を通して、進んで仕事をする事、挨拶・報告・返事をする事など、将来の職業生活に必要な力を育みます。また、地域性を生かして地域と連携した取組を行っています。木工、陶芸、縫製、農園芸、食品加工、ビルクリーニング、エコ・クラフトの7つのグループに分かれて学習しています。



【専門講師による
接客研修・食品加工】



【地域の果樹園での
作業体験・農園芸】



【清掃業務企業による
技能指導・ビルクリ】



【県立大学と協同の
藍染め・縫製】



【りんご灰釉薬の
開発・陶芸】

校内実習 現場実習

自立と社会参加を目指し、学校から社会へ円滑に移行できるように、春と秋の年に2回、14日間校内外で就業体験を実施しています。現場実習では、学校で学んだ内容に加えて家庭で身に付けた力も求められます。現場実習は、学校や家庭で身に付けた力が求められることから「日常生活を含んだ学校生活全般についての力試し」の機会とも言えます。



【地域の事業所での職場実習の様子】

職場を知る
(ルール・習慣)

自分を知る
(適性や課題)

職場実習のねらい

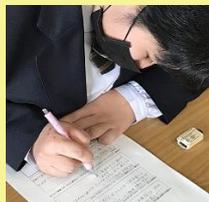
働く力を試す
働く力を高める

働く意義を
実感する

2. 自分自身や将来・夢に向き合う学習 (自己理解やキャリアプランニング能力の育成)



【定期的な個別面談／ライフプラン作成】



【卒業生と語る会 先輩から学ぶ機会】



3. 地域への愛着心を醸成する地域貢献活動



【地域へのプランター設置】



【駅舎の清掃活動】

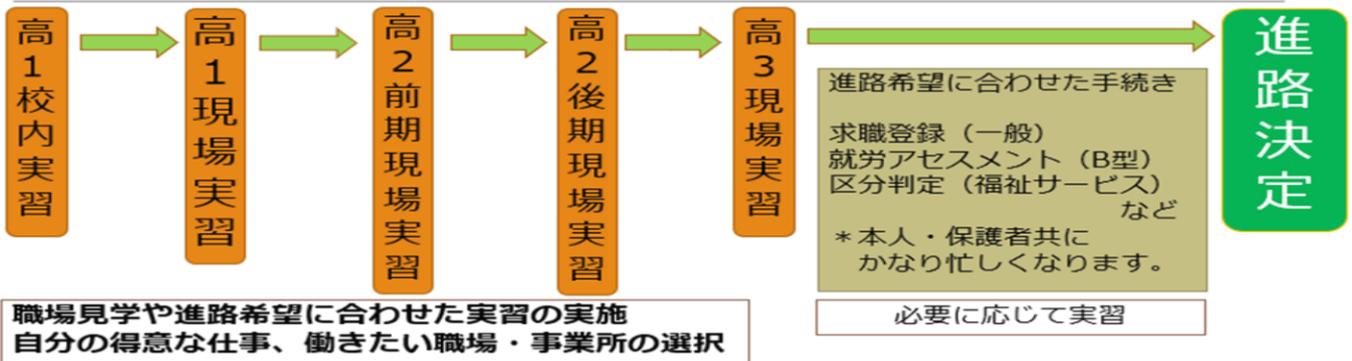


【関係機関での窓清掃】

卒業後の進路決定まで

高等部では進路決定に向けて、次のように実習を実施しています。

高等部実習の予定



現場実習や個別実習では、実習受け入れ先から 項目（働きぶり、コミュニケーション、身だしなみ等）について評価を受け、生徒や家族の希望と受入先事業所の意向をすり合わせていくことになります（一般就労・福祉サービス利用どちらも共通）。

進路先や実習先を決める

生徒本人や保護者の意向について、進路決定に向けて優先することを面談時に確認しています。話題にする項目は、主に次の4項目です。

- ①仕事内容：本人に向いている仕事とは何か。座ってじっくり取り組む仕事、立ち仕事など
一般就労→「事業所の求める力（職場によって異なる）」を生徒が満たしているかがカギ
 - ②通勤・送迎：自力通勤・家族送迎が可能か、事業所の送迎サービスが不可欠か など
 - ③勤務時間：帰宅して一人で過ごせるか、一般就労を優先する場合、短時間勤務可か など
 - ④条件など：B型や生活介護の希望など（最終的には事業所が判断、希望と異なることも）
- *双方のニーズのマッチングができなければ、受け入れ不可。利用できないこともある。

高等部で現場実習などを行いますが、それまでにじっくりと「仕事に向かう基盤」を整えておくことが大切です。実習の評価を受けると「仕事はできるけど、〇〇がね・・・」など、仕事以外で課題があることも多いです。例えば、他の利用者とのかわり方、支援（アドバイスや注意など含め）を受け入れること、身だしなみ、体調・生活リズムの安定、意欲的に取り組むなどが挙げられます。これらの「仕事に向かう基盤」は、小学部段階から育むことができ、本校では小学部段階から「天王みどり学園 キャリア教育全体計画」にまとめ、系統的に指導しています。毎日の学習や家庭での経験は、卒業後の生活につながっています。今後も学校と家庭が情報交換や役割分担をしながら、本校の教育目標「地域の一員として、一人一人が輝き、進んで社会参加できる児童生徒の育成」を目指して一緒に取り組んでいきます。

秋田県立支援学校天王みどり学園



TEL:018-870-4611 FAX:018-870-4612

教頭:高橋 省子 教育専門監:新目 敏子 地域支援部:遠藤 美和子

特別支援教育地域センター(男鹿市立船川第一小学校内):月・水・金

TEL:0185-24-3231

特別支援教育アドバイザー[船木 祐子]